

病院名を「東千葉メディカルセンター」に変更しました

東金九十九里地域医療センターは、千葉県と千葉大学の支援と協力を得て準備が進められ、設立団体である東金市と九十九里町の住民の医療だけではなく、三次救急を含む山武長生夷隅医療圏の医療ニーズに応える役割を果たすためには、広域性のある名称にすることが望ましいと考え、病院名を「東金九十九里地域医療センター」から「東千葉メディカルセンター」に変更しました。

これは、簡潔で覚えやすく全国的にも所在場所がわかる名称、また周辺地域の協力・支援を得やすい名称であるとの視点から、検討の結果、千葉県東部地域に存在することが明確となる「東千葉メディカルセンター」に決定したものです。

なお、法人名である「地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター」は変更しません。



—開院に向け看護師の研修が行われています。(千葉大学医学部附属病院)—

《病院名の変更ロジック》
病院名を変更するには定款を変更することが必要です。東金市、九十九里町のそれぞれの議会の議決を経て、千葉県に定款変更申請をし、千葉県知事の認可があった平成24年3月23日の変更日となります。

開院に向けて着々と準備中！

医師の就任

平成26年4月の開院に向けて、千葉大学の公募により今年度から新たに特任教授1名が就任しました。特任教授に就任されたのは千葉大学に准教授(臓器制御外科学)として勤務されていた木村文夫先生です。

木村先生は特任教授として、開院に向けての準備を、従来からのスタッフと一緒に進めるとともに、メディカルセンターに併設される千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センターの整備を進めていきます。

奨学金を充実

看護学生向けの奨学金は、地方独立行政法人による全国の看護師養成機関の学生を対象にしたもの、また東金市による地元城西国際大学の看護学部学生を対象にしたものの二種類の奨学金制度が用意されています。

東金市の奨学金は募集を上回る申し込みがあり、15人が城西国際大学の看護学生としてのスタートを切りました。

看護師確保に向けて

当センターは今年度看護職員を増やし、開院に必要な準備を進めています。

東金市役所内では、看護部の中心となって働く看護師たちが看護師募集に取り組み、看護体制、教育研修プログラム、看護基準手順などを検討しています。

また、「高度で先進的な看護技術・知識を身につける」ため、千葉大学医学部附属病院を研修先として選び、看護師としてのスタートを切った新人たちもいます。

平成26年4月の開院までに必要な、およそ130名の看護師を順次採用していきます。高度で安全な医療看護を提供し、地域の皆さんから信頼される病院を一緒につくっていきましょう。皆様のご応募をお待ちしています。

看護師募集

採用予定日▶平成25年4月1日
勤務場所▶採用から開院までの間は、千葉大学医学部附属病院をはじめ千葉県内の病院で勤務・研修をしていただきます。
選考方法▶面接
選考日程▶
1回目：平成24年7月27日(金)
2回目：平成24年7月28日(土)
(書類提出期限は7月17日(火)まで)
3回目以降の選考日程などについてはホームページをご覧ください。
応募資格▶平成25年3月卒業見込みで、助産師・看護師免許取得見込みの方、又は有資格の方。
選考会場▶東金市役所
就職説明会▶
①平成24年6月2日(土)
10:00~16:00
成田市 イオンモール成田
②平成24年7月29日(日)
9:00~13:00
千葉市 京葉銀行文化プラザ

◆認定看護師をめざすみなさんへ
資格取得のための入学金、授業料、研修期間中の必要経費などを補助します。
※開院後、3年間勤務することが条件です。

◎問い合わせ
看護部看護人材育成課
TEL 0475(50)1254
FAX 0475(50)1299
e-mail: info@tkmedical.jp
URL: http://www.tkmedical.jp/



安全安心な暮らしをまもる…

地域医療センター事業を 計画どおり進めてまいります



東千葉メディカルセンターは、平成26年4月の開院をめざして、速やかに建設着工できるよう準備を進めています。

地域のためのメディカルセンター

メディカルセンターは、この地域に多いがん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の4大疾病、さらに救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療を4事業と位置付け、これらに対応するため22の診療科を設置し、救急医療だけでなく地域における中核病院として、また災害時の拠点病院としても必要な医療を提供します。



メディカルセンターには地域医療連携室を置いて、他の地域医療機関や福祉施設と連携を図り、一般外来患者の受け入れや紹介といった地域医療ネットワークを構築し、患者さんにとって利便性の高い利用形態を提供し、地域住民のためのメディカルセンターをめざしています。

命を守る救命救急

この地域では、救急患者の約4割が山武地域の病院で対応できない状況で、地域外の千葉地域、印旛地域、海匝地域まで搬送しているため、救命救急体制は非常に厳しい状況にあります。

山武長生夷隅保健医療圏では、高度の救命処置を行う三次救急施設が無く、他の医療圏の救命救急センターに頼らざるを得ない状況です。

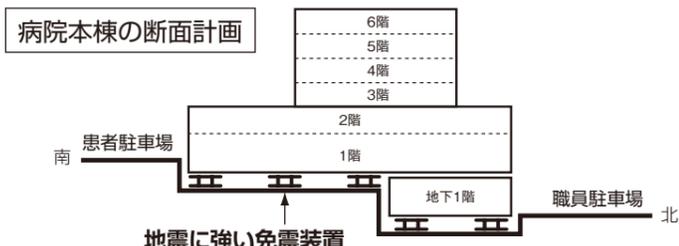
メディカルセンターに救命救急センターが併設されることにより、山武地域や長生地域からの搬送事例に対してもすばやい対応が可能になります。

救命救急センターはICU10床 HCU(一般病床とICUの中間的なもの)10床を備え、24時間365日対応します。



災害にも強い病院

メディカルセンターは、万が一の震災等の場合には医療の砦となります。そのために、メディカルセンターの建物は、地震に強い免震構造とし、病室に転用可能な会議室設計、大型ヘリ対応可能なヘリポート、災害時でのトリアージスペース(患者の容態や緊急度に応じて治療の優先順位を判断するためのスペース)を考慮したピロティ配置など、東日本大震災の教訓を踏まえた設計としており、災害拠点病院として、地域の安全安心を守る役割を担います。



進む医師・看護師の確保

全国的な医師不足・看護師不足が話題になっていますが、メディカルセンターは、千葉大学医学部附属病院の臨床教育センターのしくみにより、千葉大学から派遣される教授・准教授・講師等の医師が直接診療を行いますので、医師不足により診療ができない、という状況にはなりません。他の病院の医師確保とは基本的に違うしくみです。すでに千葉大学と臨床教育センターに関する協定も結び、医師の人も順次進められています。

看護師確保については、昨年の4月から看護部長を配置し、全国の看護学部や看護学校、看護協会などを積極的に訪問し、今までの経験を生かした人材募集を展開しています。



メディカルセンターの健全運営

メディカルセンターは、県立東金病院の医療機能を引き継ぐとともに、山武長生夷隅保健医療圏内に救命救急センターを設置することを前提に、千葉県より85億6千万円の財政支援と起債(病院事業債)を資金として建設するものです。

この起債の返済に千葉県からの資金を充て、他の同規模・同業内容の病院の経営状況を参考に収支計画を作成しました。

収支の均衡が図れても、救命救急センター(ICU)は一般病棟に比べ、看護師の配置基準が2対1(一般病床は7対1)と高いことや医療機器等の所要経費が高額になり、採算的に厳しいことが見込まれます。

救命救急センターは東金市・九十九里町以外の方々もたくさん利用することが想定されます。そのため救命救急センター部分に限り周辺の市町村より利用実績に応じた財政負担をお願いするための考え方を千葉県とともに説明してきました。具体的な協議はこれからであり、千葉県とともに周辺市町村へ理解をいただくための働きかけを続けて行く予定です。

健全運営を目指した協議を進めています。

